

鳥獣害対策の推進

要約

鳥獣被害により農業所得が減少する事態が、管内の全ての市町村で問題となっており、被害は面積、金額ともに多い。そこで、地域で被害対策が出来るように、防除体制の構築を行った。新しい取組として農業者が捕獲活動をサポートする体制の構築を行った。

現状(背景)と課題

- ・五條市古田1団地においてH30から2年間猟期に箱わなの設置を行ってきたが捕獲には至らず、未だに被害が発生している。近年猟師の高齢化に伴い、捕獲従事者の減少が進んでいる。そこで、農業者が捕獲活動を補完することが出来る国の事業を活用し、市職員により周年わなを設置することで捕獲率の向上を目指す。
(捕獲活動サポート隊 設置数 0)
- ・大淀町大岩地区において、これまで被害のなかった地域でイノシシ等による被害が増えており、地域ぐるみで鳥獣被害対策の正確な知識を持ち、自ら正しい防除を実施できる体制作りが必要。
(被害地域の農産物被害面積 3ha)

目標

- ・被害防止に向けた捕獲活動サポート隊の設置数 1
- ・被害地域の農産物被害面積 2ha

成果

- ・捕獲活動サポート隊の設置数 1
- ・有害個体の捕獲 イノシシ1頭(過去2年間0頭)
- ・被害地域の農産物被害面積 3ha→イノシシ被害は減ったが4月にサル被害が新しく発生
- ・集落全体で被害対策を行う必要があることの意識付けができた。

活動内容

- ・市役所とともにカキパイロット団地(古田1団地)入植者に働きかけ、捕獲活動サポート隊(42名)を設立。箱わなの見回り巡回と給餌を行うための見回り当番表を作成。
- ・センサーカメラを用いた効率的な捕獲活動支援や、箱わな安全使用研修会(42名)を開催。
- ・被害地域である大淀町大岩集落において集落全戸(23戸)が所属するNPO法人「おおいわ結の里」を指導対象とし被害対策モデル地区を設置。役場とともに集落点検を実施し被害マップを作成。
- ・集落内へ侵入する獣の種類や侵入経路を把握するため、センサーカメラを設置し、集落総会(20名)で、センサーカメラの結果から集落内での獣の動きを共有する勉強会を開催。



箱わな安全使用研修会



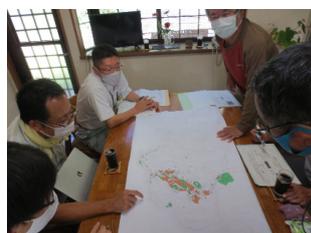
箱わな巡回の様子



センサーカメラの活用



カキ園内で実害個体の捕獲



役場、集落代表者と被害マップの作成



集落点検



集落総会で勉強会の開催

南部農林振興事務所農業振興課
 担当：農産物ブランド推進係 浦崎・濱口
 集落ぐるみ被害対策強化事業、鳥獣被害防止活動支援事業、総合的鳥獣害対策推進事業

普及活動のポイント

- ・捕獲活動サポート隊の取組については、市役所とも連携し研修会を行うとともに、農業水産振興課より支給されたセンサーカメラを用いて、箱わなでの効率的な捕獲に繋がった。
- ・被害地域の被害対策モデル地区での取組については、農家だけでなく、非農家へも意識の共有を行うため、センサーカメラの動画データを用いた勉強会を行い、他人事ではないと思うきっかけとなるよう心がけた。

対象の変化

- ・箱わなの管理はこれまで猟師に任せていたが、捕獲活動の一部を行うことで捕獲について考えるきっかけとなり、みんなで守っていくという動機付けができた。
- ・獣害対策は、地域ぐるみで取り組んでいくことが重要であるということを確認した。

対象者からのコメント

- ・H30年に捕獲の取組を始めてから、初めて捕獲することが出来た。今後も引き続き捕獲を行いたい。(捕獲活動サポート隊 組合長)
- ・今後も継続的に地域づくりを行うに当たり、鳥獣害対策は農業のみにかかわらず地域の課題としてとらえている。住民が村を守るという意識を高揚させることが出来るように取り組んでいきたい。(大岩区長)

これからの活動ビジョン

- ・今回の取組を契機に、獣害対策に対する考え方を会得し、集落で継続的な対策を続けていけるような誘導が必要。モデル地区での対策を確実に行うことで他地域への波及を図る。

活動体制

